

学校再編についての住民説明会

日 時：平成28年 7月24日(日) 午前10時00分～12時08分

会 場：駅東地域交流センター

出席者：住 民 42人(男27人、女15人)

教育委員会 委員長 後 藤 眞 琴

委員 成 澤 明 子

委員 千 葉 菜穂美

教育長 佐々木 賢 治

教育次長兼教育総務課長 須 田 政 好

教育総務課課長補佐 早 坂 幸 喜(司会・進行)

《課長補佐(早坂)》

皆さん、おはようございます。学校再編についての住民説明会というご案内をしておりますが、単なる説明会ではなくて皆さんの意見を聴く会ということで進めさせていただきます。はじめに美里町教育委員会後藤委員長から挨拶を申し上げます。

《教育委員長(後藤)》

皆さん、おはようございます。メモを見てお話しすることをお許してください。小中学校の再編につきまして以前から教育委員会の懸案事項でありました。教育委員会では小中学校の再編につきまして、平成26年4月の定例会から継続協議にして協議を重ねてまいりました。そして、平成28年6月の定例会におきまして小中学校の再編についてまとめた美里町学校再編ビジョンを策定いたしました。今日は最初に教育委員会が現在考えている美里町学校再編ビジョンに沿った具体的な取組について簡潔にご説明申し上げ、次にそれに対する皆さんの率直な御意見、お考えをお聞きし、そして皆さんと意見を交換しながら将来の美里町の学校の在り方について考えていく一歩としたいと考えております。お配りしました学校再編住民説明会の開催についてという資料にもありますように、皆さんに今日ご説明申し上げる教育委員会が現在考えている再編ビジョンに沿った具体的な取り組みは、これからできる限り皆さんの御意見、お考えをお聞きし、皆さんと意見を交換しながら、共に将来の美里町の学校の姿のよりよいものを考え出して最終決定していくためのたたき台でございます。詳細につきましては教育次長から申し上げます。皆さんの率直な御意見、お考えをよろしく申し上げます。

《課長補佐(早坂)》

説明に入る前に、誰から説明を受けているかがわからないと皆さんの方でも納得しにくい部分もあろうかと思っておりますので、出席しています教育委員会の出席者をさせていただきます。自己紹介で行います。

(出席者6人が自己紹介をする。)

《課長補佐（早坂）》

それでは、教育次長の須田から、学校再編についての説明を行います。

《教育次長（須田）》

皆様にお配りをさせていただいております資料の確認をお願いします。資料は3部になります。次第が1枚と、その下に何枚かを左上で綴じた説明会のお知らせというのがあります。それからもう一枚は、説明会の説明資料として、昨日の午後の北浦コミュニティセンターの会場から追加資料として追加で配布しています。昨日の午前中の説明会でご指摘を受けまして、児童の推移もあった方がいいだろうというご意見をいただきまして、昨日の午後の説明会から追加した資料でございます。この3部ありますでしょうか。それでは説明につきましては、何枚か綴じています学校再編についての住民説明会と書いてあるこちらの資料を使って説明をさせていただきます。一番上のチラシと申しますか、周知用のチラシにつきましては2点ほどねらいがあります。1点目は、今日から始まります町内8か所の住民説明会を皆様にお知らせするという事です。この下段、下の表にそれぞれの会場と開催の日程日時を記載しております。今日、明日、それから来週の土曜日と三日間にわたりまして小牛田地区5か所、南郷地区3か所でそれぞれこの表のとおり開催いたします。これを皆様にお伝えたく7月1日号の広報みさとに掲載しております。それから真ん中（中央部分）には、今教育委員長がお話ししましたように現在教育委員会が考えている学校再編、将来の美里町の学校の姿、それをまとめました学校再編ビジョンというのがあるのですがそちらの方の骨子の部分、中学校の再編については、現在の3つの中学校を1校に再編すると、目標ではございますが平成33年の4月開校を目標にめざしていきたい、というのが1つです。それから小学校については、こちらの方につきましても将来的には1校にしたという考えであります。その経過措置としまして中学校区ごとにまず1校に再編し、その後に3校を1校にするというのが教育委員会の考えであります。このような内容をこのチラシ、あるいは広報の記事を通して町民の皆様にお伝えしたいということです。この資料一式については事前に各会場に置かせていただき配布しております、また、そのほかに幼稚園、小学校、中学校の園児、児童、生徒の皆さんに、夏休みになる前に、お子さんに家庭に持ち帰っていただく形で各世帯に配布をしております。今日の午前中の会場でご指摘ありましたが、保育所の子どもたちにも持ち帰らせればよいのではないかとのご意見をいただきました。この次からは保育所のお子さんの各家庭にも配らせていただきます。これ1枚をめくっていただきまして、2枚目については教育委員会から住民の皆様へということで、先ほど教育委員長が挨拶申し上げましたものを文面で簡単に書いたものであります。内容の説明は省略させていただきます。めくっていただき、3枚目以降、ここからページをふっています。1ページから6ページまで、学校再編についての説明会の資料であります。本日この資料について簡潔にご説明させていただきます。別途お配りしました次第と重複する部分もありますが開会の挨拶の後に説明ということですが、6つのポイント、6つの説明内容に分けて資料も作成しております。この6つのポイントをこれからお伝えしたいと思います。1つ目は、中

学校の再編をなぜ行うのか、2つ目はどのように再編するのか。①と②につきましては中学校の再編について記載しております。次に③と④は小学校の再編について同じように、なぜ小学校の再編が必要なのかと、そしてどのように再編するのかということを書いてあります。5点目はそれぞれの再編に伴います事業費、費用のお話をしたいと思います。そして最後の6点目は今後の取組についてお話をさせていただきたいと思います。それでは1枚目をめくっていただきまして、2ページの①、なぜ中学校の再編を行うのかということで再編の理由について教育委員会の考え方を書いてあります。さまざまな再編に向けての要因、理由等がありますが、その中から主な理由として2つ、まず生徒の減少が進んでいるということです。それからもう1つは学校施設の老朽化が進んでいるということです。率直にストレートに申し上げますと、資料の一番後ろに、各学校の建築した年度とか、あるいは建築してから何年経っているかという資料もつけております。その下に中学校の3校について掲載しておりますが、小牛田中学校ではもうすでに51年、不動堂中学校で46年が経過しています。この2校についてはかなり古くなっています。今、現在は修繕をしながら生徒の安全を保ってきておりますが、今後ですね、これがいつまで使用できるのか、今このまま何もせずに修繕だけを繰り返してやっていけるのかという問題があります。この2校が古くなっているの、なんとか両校を大規模改修して直すのか、あるいは新しく建て直すのか、何かの手立てをここ5年、あるいは10年、この期間中に何かをしなければならないと思っています。このまま放っておくことはできないということです。それと子供たちの数がへってきますので、それぞれの学校、小牛田中学校、不動堂中学校を建替えすれば一番よろしいのですが、町の財政にもかなりの制限があります。その2校を新築、あるいは大規模改修をしてきちんと直した場合に、生徒の今後の推移を見たときに、費用対効果という言い方は教育に対して失礼な言い方かもしれませんが、2校をこのまま今後学校として維持できるのか、新しく2つの学校を建てて良いのだろうかという疑問があります。生徒の減少と学校の施設が古くなっているという2つの要因から、今教育委員会としては今後の中学校の将来の姿をしっかりと定めて、考えて、決めて、それに向けた整備を進めなければいけないというのが、今回の学校の再編整備に動いた最初のスタートであります。それと併せて、小学校もそれぞれ古くなってきています。新しい学校もありますが古くなってきています。小学校も併せて一緒に考えていこうというのが、今回の中学校と小学校について教育委員会がいろいろと検討してきた内容であります。次の3ページの中学校をどのように再編するのか、これは先ほどもお話ししたように不動堂中学校、小牛田中学校、南郷中学校の3つの中学校を、仮称として美里中学校としていますがこの1校にしてはどうかという考えです。3校を1校に再編することを早期に取り組み生徒の学習環境を整備していくべきというのが教育委員会の現在の考えであります。時期は33年4月開校を一つの目標としたいという考えです。次に4ページ、5ページ③、④の小学校の方に入らせていただきます。小学校の方につきましても先ほどお話ししましたが、中学校の再編を考える場合、小学校の将来的なビジョンをしっかりと持った上で中学校を再編するべきであろうと。昨日の会場でも小中一貫校

とかいろいろな考え方の意見が出されました。そういった中学校の再編だけでは終わらない部分もありますので、小学校の再編も含めて考えていくということです。ここには複数クラス、学級替えをしたいと考えを書いておりますが、これについては昨日の会場でもいろいろな意見を出していただきました。本日も皆様の御意見をお聴きできればと思います。それから④はどのように再編をするのか、こちらの方についても昨日の会場でいろいろな意見を出していただきました。先ほどお話ししましたように中学校区単位で1つずつに再編をして、その後に1つに再編をしたい考えです。時期ですが、これについては皆様にお配りしました平成33年までの児童数の推移を書いてございます。しかし、この段階では大きな減少はないのですが、その後の推移を見ながら決めて行っても良いのではないかと考えています。比較をすれば小学校の方は中学校よりは時期的に遅れても良いのではないかと考えています。これから32年度まで5年間くらいかけて検討を重ねていって、そして取組については33年度以降の取組となる考えであります。これについても皆様から忌憚のない御意見をお聞かせください。次に6ページであります。費用はいくらかかるのかというところです。これから学校再編を進める場合には、その再編する内容によっても変わってきますし、再編の方法、今ある学校を大規模改修して活用していくのか、あるいは新しく学校を建てるのか、新しく用地を求めて学校を建てるのか、今の学校敷地に建てるのか、いろいろな方法によって事業費が変わってくると思います。これについて、教育委員会としましては、まだ積算といいますか、ちゃんとした調査は行っておりません。今後、専門の業者をお願いをしてですね、今ある校舎を大規模改修して長寿命化を図れるのか、あるいは図る場合には大規模改修の事業費にどれくらいかかるのか、あるいは新築の場合は近隣で最近建てた事例からある程度の事業費が何十億円という大ざっぱな事業費ですがそれは括めますので、それらと専門業者に見ていただく大規模改修の費用と時間的なものを比べながら、比較しなければいけないと思っています。今回、昨日から始まった皆様から御意見をお聴きする会をスタートにして、教育委員会のこうした考えに対する皆さんの御意見を聴きながら、そして同時に、そういった詳細な調査を進めてまいります。その結果をまた皆様にお伝えをしながら教育委員会の考えを、いろいろな案を皆さんと練っていききたいという考えです。次の⑥に入りますが、9月には各学校、小学校、中学校のPTAの皆さんをお願いをして保護者、父兄の方々との意見交換会を何回か開催しようと考えています。その後、教育委員会としてもいろいろと調査をして、先ほどもお話ししましたようにいろいろなデータが出たら、また、いろいろな考え方が出てきた都度、こうして皆様のところにお邪魔をして、意見交換をしながら、きちっとしたものを作っていきたいと考えています。この⑥の資料には1月に第2回の住民説明会とございますが、第2回の住民皆様との意見交換会がもっと早まって、遅くとも1月にはまた行いたいという考えであります。その前にもお邪魔をして意見交換会を行うようになるかもしれません。そういった考えで、今回23日から始まりました住民皆様との意見交換会であります。忌憚のないご意見を出していただければと思います。よろしく願いします。添付の資料について説明します。後ろに2枚の資料がありますが、最初は別紙資

料の児童生徒数の現状と推計で、この資料につきましては中学校の平成28年、現在の各中学校、各学年別の生徒数と、再編する目標であります33年度の時の推計の生徒数を書いています。そしてその下には、それを30人未満学級でもっていった場合にどのようになるかを書いています。線を引いた下の表については各中学校の各部活動の部員数を書いています。その裏につきましては、総合計画が4月から新しく作られましたが、そちらの方で行った人口推計から拾って児童生徒数のそれぞれについて小牛田地域、南郷地域の推計をデータ上の推計から引っぱっています。ここの総合計画で行っている人口推計は、これから町の定住化を図り、少子化対策をいろいろな面で図って行って目標人口というものを設定しています。その目標人口に沿った推計でありますので、この目標を達成した場合の人口推計でありまして、こうしたものを使って児童生徒数を推計しています。それから最後には、先ほどお話ししました学校施設の老朽化の現状ということで、小学校6校と中学校3校の建設年と建設してから何年経っているかと、それから敷地面積、延べ床面積、そして右側にCRとあるのはクラスルームで普通教室の数であります。これらの資料をこれからの学校再編を考える上で、資料の一つとして参考にしていただければと考えています。以上であります。

《課長補佐（早坂）》

ただ今、学校再編についての説明ということで、説明の概要を説明させていただきました。これから、説明会とはなっていますが、皆さんと意見を交換する場としていきたいと思えます。皆様の方から質問、あるいは意見、そういったものを是非いただければというふうに思えます。ただ、本日は昨日までと比べますと人数が多くなっておりまして、若干整理をさせていただきます。まずは、最初に説明しました①、②の中学校の再編、なぜおこなうか、あるいは、どのようにおこなうか、その部分について質問、意見をいただきたいと思えます。さらに、その後で、小学校の再編に関して、同じように質問、意見等をいただきたいと思えます。さらに、最後に全体を通して総括でいただきたいと思えますのでよろしく願います。自由発言になってしまいますと、わいわいとなってしまいますので、発言される方は挙手をいただければ、こちらの方で願いますということで指名させていただきますのでよろしく願います。それでは、まず、中学校の再編に関する部分で。はい、どうぞ。

《女性》

2点について確認をお願いします。まず、1点目はですね、少子化、少子化と叫ばれていますが、美里町としてこの町の人口を増やしたいのでしょうか。魅力的な町づくりをして若い労働者を増やすようないろいろな政策とか工夫とかどのようにしているのでしょうか。このまま人口減だから、少子化だから学校は一つになるのだからと考えているのでしょうか。2つ目は、中学校を一つにするという教育委員会の考えがありましたが、メリット、デメリットは物事に必ずあると思うのですが、もう少し具体的に詳しく教えていただけないでしょうか。

《教育次長（須田）》

人口減少問題対策についての町の考え方、今後の取組についてですが、町でもここ2年ぐら

い前から人口減少問題対策会議として職員間で打ち合わせ会を行ってきました。その中でいろいろな案を出したり、いろいろなものを実現しようとして案を出したりしていますが、なかなか速攻薬としての対策は見つかっていないのが実情です。しかし、教育と子育てにしっかりとした整備を行っていかうというのは、その中で得た結論であります。今年の4月から始まっています総合計画の中の重点政策として4つありますが、その中にこの2つが入っています。そしてその中で、これと言った光ったものは今のところはないのですが、一つひとつ木目細かなサービスをしていきたいと考えています。そのためにはソフト事業も当然であります。そして、ハード事業の面も出てきます。ハード事業の面ですね、先ほどもお話ししましたようにこれからどんどんと古くなっていきますので、このまま放っておくのではなくて、早めはやめに手をつけて、ハード事業はハード事業としての整備をしていきたいという考えであります。これから人口減少対策に町がこうしていくという特別な対策としての政策等は現在のところまだありません。一つひとつきめ細かな教育と子育て支援を行っていきたいという考えであります。

《教育長（佐々木）》

美里町としての中学校の適正規模としては一学年3学級以上を目標にしたいと考えております。お手元の資料にもあるように、平成28年度で一学年3学級以上の学校は小牛田中学校が二つの学年、不動堂中学校が一つの学年、南郷中学校は3学級の学年はありません。そのような実態であります。3学級以上になりますと生徒数もけっこう増えてきますが、やはり多くの生徒が一つの集団の中にいるということによって人間関係、社会性とかコミュニケーション能力、そういったことがより身につくであろうということです。それから、2点目ですけれども、やはり学級数が多いとクラス替えとか指導の形態もいろいろ手法として導入することができます。指導の形態については後ほどお話ししますが、子供たちが学習面で切磋琢磨することによって学習意欲あるいは充実した学校生活に結びつくであろうと、そのような考え方であります。それから指導体制側から申し上げますと、教職員もかなり増えます。特に美里町では30人未満学級を目標に今考えていまして、教員の人数を今そこに出しておきましたが、教職員同士で一学年ひとり、ふたりよりも数が多い方がいろいろと研修の成果も現れますし、指導に当たるお互いの力量も確認しながら高めることもできると、それから先ほど申し上げました学級数が多くなる、そして場合によっては二つの学級を三つの学級にわけて少人数指導、少人数指導の中でも習熟度別指導ということなども導入できることが可能になります。生徒の実態に応じたグループを編成して、目標をもってそれぞれがんばっていくと、もちろん習熟度別のグループは一年間同じグループでなくて、常に希望を取りながら、入れ替わりは可能であります。現在も導入している学校もありますけれども、そのような多様な指導形態をとることができるようになります。そのほか、集団で行う教育活動、運動会、体育祭、文化祭、学習発表会、さらには部活動など多種多様になり、生徒たちがやりたい部活、やりたい生徒会活動が可能になります。現在、中学校ごとの部活動の人数を資料として準備させていただきましたが、×の印のところも結構あります。それか

ら一つの学校で人数が足りず二つの学校で合同してチームをつくり中体連等々に参加しています。中には自分の入りたい種目の部活動がないですね、という声なども時々耳に入ってきます。そのような実情です。

《課長補佐（早坂）》

今、人口対策の部分、再編によるメリット、デメリットということでお話をさせていただきました。関連で何か質問はありませんか。

《男性》

実は私昨日も本小牛田の説明会の方に行ってきたのですが、先ほどの方の人口減に対する教育委員会としての対応というご質問は昨日も出ていました。今、課長補佐さんの説明だとこれは教育委員会ではなくて役場の担当課の方であるとのことでしたが、昨日も先ほどの方もそれをわかっている話されていることだと思います。教育のこの場で何かできないのかと、要するに学校の環境の魅力、それは教育委員会でしょ、そういったものを作れないのかという話だと思います。私もそれに同感です。先ほどの須田課長の話で、実際は具体的に持っていないということを言っていました、そこを議論しなければならない。私は無いことはないと思います。これをきっかけにしてですね、この町いいところで、例えば、やるやれないを別にして、給食費をタダにしたらどうですか。これできないことないですね。今の給食費は2000食ですから、年間で小学校まで全部入れて9000万円くらいのお金がかかるはずですよ。しかし、先々、小学校が1校になれば、今の間接費が半分くらいになると私は思います。平成26年度で間接費が2億4000万円くらいありますね。半分になると1億2000万円になる。そうすると給食費、全部タダにしても4000万円おつりがくる計算になりますね。やるやらないは別としても、こういう状態で教育委員会としても取り組むことがある、できるはずですよ。今人口減で他と差別化して、「美里のあそこへ行きたい」というようなものを作らなければならないわけですから、これは教育委員会だけではなくて町全体で作らなければならないですね。その時に、美里に行くと給食費タダで、うち子ども3人いる、3人の給食費タダだったらこっちに移ろう、という人たちだって出てくるわけですから、一概に企画財政とかこっちの本部のほうのことではなくて、教育委員会としても真剣に町の人口増、あるいは人口減をストップするというようなことでも是非取り組んで欲しいと、こう思います。それから、中学校の統合の話優先的にやろうとしているときに、教育長の先ほどの説明ですと小学校の説明をしているような感じですよ。少人数学級でやっているとか、中学校は少人数学級はやっているんですか。

《教育長（佐々木）》

やっています。

《男性》

そうですね、それは失礼しました。私は小学校がメインだと思って聞いていました。それでこれは間違っているなって思ったものですから。以上です。

《男性》

質問というか、先ほど教育長さんのお話のあったほかに、学校に規模が大きくなると、教科の専門の先生を揃えやすくなることもあるのではないかと思います。学級数が少ないとその教科の授業数が少ないので先生が掛け持ちをする、専門外の教科を担当したり、ということで都市部、大都市部と田舎の方の学力の差というのはその辺にも理由があったりします。たぶん、基礎教科の国語、数学、英語、理科、社会とかそういうのはどの学校でも専門の先生がいると思うのですが、その他の教科になると専門の先生を揃えるのが難しい。それで掛け持ちになってしまう、そういうことがあると思います。ですから、学校規模が大きくなると専門の先生を揃えられる、そういうメリットがあるのではないかと思います。あとですね、中学校の再編についてですが、まだ費用の方では行っていませんが、現在ある3つの中学校のうちのどこを、そのうちの一つの校舎を改修する方法と、その敷地を利用して校舎は解体して新たに建てるというそういう方法、新たに敷地を求めなくて済むという方法は経済的なメリットはあると思いますが、まったく違うところに建てるのであれば、敷地も新たに購入するということが財政負担がさらに増えるだろうと思いますが、それはどこに中学校を建てるかということに大きく関わることでありますので、財政的にはそういうことがあると思います。私としては、個人的にはこの3つの中学校のいずれかの敷地を利用して大規模改修又は新築するのがいいのではないかと考えています。財政的な負担も軽くなりますし、ただ途中において仮校舎などを利用しての授業というような問題もあるので、その辺の問題の解決は必要かと思っています。先ほどから人口増対策を考えるべきだという意見が出ていますが、それはそうだと思います。しかし、その効果は未知数なので現状を基に検討をしていかないと、あとで「やあ、困った。準備していなかった。」というようになったのではまずいので、やはり現状をベースにして考えていかざるをえないのではないかと思います。人口増対策は別途に行うとしてもそのように思います。以上です。

《教育次長（須田）》

2点目の取得する場所の問題、校舎の利活用か新築かの問題ですが、現段階で、再編がどのような内容になるのか、その辺の調査はまだ行っていません。現在ある学校の現状と敷地の現状は皆様にお配りした資料のとおりであります。今後、どのような方法に向かって行っても、事務的な作業については予め進めてまいります。仮に中学校を統合して一つの中学校にした場合には最低でも3ヘクタールの土地は必要だと思います。3ヘクタールという空き地は町では所有していませんので、民間の土地を借り上げることとなります。民間の土地でも3ヘクタールとなると、このような土地柄ですから水田になってきます。水田ですと農業振興地域内にあつて農業振興法等の規制が加わってきます。その規制を解除するためのいろいろな手続が必要になってきます。その年数を計算しながら、どれくらいの期間がかかるのか、そしてどれくらいの費用がかかるのかも計算していかなければなりません。次回、御説明にあがる時にはそのような費用と新築した場合の事業費、今の学校が使えるのか、使えるとなると大規模改修した場合の事業費をしっかりと積算したうえで、参考資料として、また、それに基づいた教育委員会の考え方を持って皆様のところに意見交換会としてお邪魔

させていただきたいと思います。

《女性》

今までの話を聞いていまして、教育の現場側からの状況は理解することはできます。町の今後の人口推移、生徒の減少、それから財政的な面については理解できるのですが、教育を受ける側の立場からいたしまして、教育委員会の方では、生徒の立場ですね、広範囲になっていくなかで一校に集まってくるとなると子どもの負担はどうなるかとか、それに対して教育委員会ではどういう送迎だったりとか、道路整備だったりとか、子供たちの安全だとかのさまざまなビジョンが見えてこない、今後のことだと言われればそれまでのことですが、立地する場所にも係ってきますが。現在のところハード面から、そして学習環境がこのように変わって行くというメリットには若干理解できました。しかし、デメリットについてはどのように考えているのでしょうか。もう一度お考えをお聞かせください。

《教育次長（須田）》

今お話がありましたように統合すれば、学校までの距離がかなり遠くなる場合も出てきます。それをこれまでのように徒歩とか自転車というわけにはいきません。これはスクールバスが大前提になってくると思います。スクールバスを朝は一本、始業時間が皆一緒です。夕方については中学生ですから部活動を行う生徒とそうでない生徒がいますので2便を、早い便と部活が終わっても乗れる便の2便を、最低でも2便体制は作らなければなりません。涌谷町の担当者のお話を聞いてきましたところ、篁岳中学校を涌谷中学校に統合されましたが、篁岳中の生徒は3学年で70人くらいいます。この70人の生徒さんを朝一本、夜2便の送迎をするためにマイクロバスを5台追加しています。本町でも5台ならず、それ以上の車両を確保して、生徒の通学手段を整備することは最低の条件だと考えています。

《教育長（佐々木）》

学校の規模が大きくなったことによるデメリットについてですが、一番は生徒数が増えることによって学級数も増えますが、例えば20人のクラスの学校と20人のクラスの学校が統合すると40人になります。今、文科省の一クラスの人数は40人です。中1については宮城県では35人になっています。ですので、一学級が37人の場合は二学級になります、しかし、2学年になると40人学級が基準なので37人は一学級になってしまう、そういうシステムです。ですから中2、中3は40人で一クラス、中学生が教室の40人も入ると本当にぎっしりです。ですから、その辺が一番心配されるところです。表現は適切ではありませんが教室に38人、39人を詰め込むということになってしまいます。そうならないように、美里町では30人未満学級を、ですから統合することによって30人を越えた学級が出た場合は二クラスにし、又は三クラス、四クラスに、いわゆる少人数による学級編成を考えています。メリットの方に行ってしまいましたが、デメリットは統合することで人数が多くなること、これは大きなデメリットでありますので、それを解決するための対策として30人未満学級を考えています。それから生徒数が増えると友達関係も複雑になるのですが、教員の数も増えます。それによって生活指導等々の面において、きめ細かな指導ができなくな

るのではないかという心配があります。その部分につきましては教員の数も増えますし、町としてもそれなりの教員補助員、特別教育支援員等々の方々を配置して対処していきたいと考えています。あとは、先ほど教育次長が説明したように通学の距離が遠くなるなどの課題が大きいと考えています。

《男性》

場所の問題と規模が大きくなった時の問題ですが、場所の問題については、どこで決まっていなくていいとすることで須田次長などは説明しておりますけれども、美里町は合併したことによって非常に細長い町になりました。その中で、端と端と真ん中、これを統合しようとしたときに、一番生徒数が多くなりそうなのは真ん中ですね。この駅東に人口が増えてきて、小学生もいっぱい増えています。小学生が2、3年すると中学生になります。それから距離的に言っても、北浦地区あたりに新しく学校をつくる、あるいは小牛田中を改修して使うとなると南郷から来るには結構時間がかかる。逆に南郷につくった場合はこっちから南郷に行く場合にも時間がかかる。子供たちの数の面と、そういう地理的な条件を考えていけば、誰が見ても真ん中あたりになってくるのが当然になってくるのではないですか。その辺の検討をされるべきだと思います。それから大人数のデメリットのところですね、木目細かなことができなくなる可能性があるという言い方を教育長はされましたが、私が今非常に心配しているのは、美里町でいま、小学校の4年生、5年生、6年生で特別支援教育を必要とする子供の数が非常に多いです。それに対して、それを支援する支援員がほとんどいない。代わりに授業補助の人たちにこれを任せている。こういう実態です。これが小牛田小学校だけでも10数人いますね、彼らが中学校に行ったときに集まったら授業なんかならないのではないですか。その辺の対応が必要だと思います。この特別支援教育をきちんとやらないと、今この町で不登校が非常に多い、不登校はこの町に今、10なん人もいる。不登校というのは教育長の話では1か月以上学校に来ていない、そういう子供、10なん人が毎日どっかにいるんです。この子供たちについて整合性を調べているんですが、特別支援教育の時にちゃんと手を取ってあるレベルまであげてやらないと、中学校の1年生の時に全部不登校になるんです。ですから、今10なん人のうち小学生が3人くらいですか、教育長さん、そんなもんですね。あとは中学生、そしてそのほとんどが1年生の時になっています。授業について行けなくなるのです。学校おもしろくないですね。ところが教育委員会の担当にまた聴きにいきますが、この子供たちは学校が嫌いなんです、嫌いにさせたのです大人が。そういう子供たちが今中学生になっていく。中学校では特別支援教育にこの町ではほとんどお手を入れています。そうなるとますます不登校が増えると思います。これは是非ですね、教育委員長さん、教育長さん、統廃合のデメリットの部分でどうしたらいいのか検討するべきだと思います。よその町よりずっと多いはずですよ。よろしくお願いします。

《男性》

平成33年4月に開校という見出しがありますが、あと4年半ちょっとですが、これはビジョンだから変更する場合もあるのでしょうか、いずれにしても一つの学校になれば通学の

範囲が広くなり、距離も遠くなります。そうした場合、安心・安全な通学路の確保が大切だと思います。クラスの人数うんぬんは財政面などで関係してくるのですが、私は何よりも子供たちの安全面、安全安心の確保が重要だと思います。

《女性》

P T Aとして一番気になるのは場所です。こちらから南郷に行くのも厳しいですし、南郷の方もこちらにくるのは厳しいです。スクールバスを確保していただいたとしても親としては部活動も関係してきますので、はじめに場所をこの当たりにと行っていただいた方がこちらとしては賛成とかの意見を言いやすいです。もちろん費用のことで場所があっちになるというのは、それはそれで仕方ないでしょうが、場所はP T Aとしてとても気になる場所です。私個人で考えますとある程度の学級がないと競争心も生まれず、なおかつ部活動であれ（競争）もないので強くもなれない、ということはあると思います。不登校についても学級編成しても、また同じ仲間うちでいると、なおのこと学校に行けない。そういうところがあって、中学1年生で不登校になった人を何人見っていますが、大概、部活動の関係からとか人間関係からとか、その後1日休んで、2日休んで勉強についていけないということがでてきます。友達関係が一番の問題なのですが、2年生からどうですかとなった時でも、クラス編成したところで半分以上が同じ顔のメンバーで、やはり2年生でも行きにくい、また同じ人に何か言われるのではないかという、特に女子はそういうところが強く見られます。やはりクラスが数クラスないと不登校も減らないと思います。行き届いた教育ということで考えるならば、少人数の学校の方が良いのかとは思いますが、競争心とからこれから社会に向かっていく中で少人数ばかりの中では生きていけないので、少し大人数で競争心を高めて、なおのこと、部活動とかで美里の名前を県内にとどろかせるような感じで、今県大会に行ったところで、不動堂中では入賞したのは今のところ一人だけです。はっきり言ってレベルが低すぎるというところがあるので、もっとレベルを高めて美里を売っていった方が良くと思います。あと、もう一つ気になるのが中総体ですが、涌谷と美里と戦って県に行くのか、大崎地域に混ざっていくのか、部活動の体制もどういうふうになるのか、今中総体やっているのでもちょっと気になる場所です。

《教育次長（須田）》

場所の問題は、再編の大きな要素だと思います。ここでこのような大きな問題と、3校体制をどのようにするかという問題を絡めてしまうと、論点があっちに行ったり、こっちに行ったりしてしまうと考えています。ですので、皆さんはそれぞれ場所に対する思いを持ちながら、今の3校、特に小牛田中学校と不動堂中学校の校舎が古くなってきているという問題、生徒が減っていくという問題に対して、美里町の中学校の将来がどうあるべきか、場所を言ってここにこのようにした方がいいですよ、と言った意見でも結構です。しかし、教育委員会では定めた場所で皆さんにこれで良いですかというところまでは議論はしておりません。今の古くなっていく校舎をどうするか、生徒数を減るのをどうするかという問題に対して、当然に場所について御提言をいただいて結構ですが、いろいろな意見を聴きながらですね、

もう少し時間をかけて具体化していきたいと思っています。今ここで、場所が入ってしまうと、論点が飛んでしまってまとめにくくなってしまおうと思います。

《課長補佐（早坂）》

中総体については、現在、遠田郡中学校総合体育連盟というところでやっていますが美里町の学校再編につきましては、そちらの方に特に申出をしておりませんので、実は何も決まっていないうのが現状です。現段階では、2校しかなくても遠田郡でやりますよとか、あるいは大崎に入りますよとか、そのようなことは何も決まっていないう状況でありますのでお知らせさせていただきます。

《男性》

先ほどのどなたかの質問にもあったのですが、中学校をひとつにした場合、通学距離が遠くなってきます。修繕的な事になるのですが、交通安全の確保というものと大きく関わることで、中学校をどこにつくるかにもかかわりますが、いずれも中学校に通学する道の安全の確保というのは非常に大事だと思います。歩道、あるいは自転車道の確保ということが大切ではないか。車中心の道路となっていますので、小中学生の通学には非常に危険が伴う、そういうものがないと。スクールバスで通学する分はそうではないでしょうが、スクールバスの範囲以外の生徒たちですね、安全に通学できるように、教育委員会だけでなく役場の関係課と連携をとってしっかりとやっていく必要があります。親としても心配になりますので。必要などころには信号を作ってもらわなければなりません。あとですね、場所の関係ですが、場所は、確かに美里町は細長いですね。北西から南東に向けて長いですね。ただ、機械的な中間に作るというのは私個人としては賛成できません。そこにほとんど人が住んでいないところになるのですね、今まではかの町に行って、統合中学校がポーンとなんか孤立した状態で建っているのを見かけたりするのですが、私はやっぱり単に距離だけで決めるのではなく、人口と掛け算するというのも変ですが、それでやや中心と言いますか、それが人口に引き寄せられて移るのはしょうがないと思います。人口集中に寄ったかたちで統合中学校が作られるのが自然ではないかと思います。真ん中に建てると生徒たちはみんな自転車通学になるとか。機械的につくるというのは賛成できないです。それから教育長の説明にもあったのですが文部科学省の基準は1学級40人、そこを30人でいきたいということは大変に結構なことだと思います。そうするとそれを想定して教室数も多く整備しなければなりません。それから教員の人数も多く確保するとか、そうするとたぶん、義務教育には文部科学省から相当の予算が交付されていると思うのですが、その分は交付されないと思うので、町の方で自前の予算で準備しなければならぬと思います。町の財政的な手当は大丈夫でしょうか。ぜひやって欲しいのですが。あとですね、特別支援教育、これも非常に大事だと思います。そちらの方の教室とか教員の確保もして、その支援が必要な生徒たちに対してもきめ細かに当たってもらう。普通の生徒と一緒にするとまたいろいろと問題があると思うので、対応が難しくなるとかですね。そちらの方もよろしくお願ひしたいと思います。そういうのをクリアしていくのが必要ではないかと思いました。

《課長補佐（早坂）》

交通安全施設の部分に関しましては、担当は建設課あるいは防災管財課になるのですが、新しいところに作ろうが、今のところになっても、そこにバスが何台も来るとなれば、交通対策というものを十分に考えていかなければなりませんので、建設課あるいは防災管財課の担当の方と協議をしながら進めていきたいと思います。信号機の設置については現状を確認しながら、場所が確定すれば宮城県公安委員会に要望していくということで対応させていただきます。

《教育次長（須田）》

30人未満学級を実現した場合には、たしかに文部科学省が基準にしているクラス数から増えますので、クラス担任の先生が増えてしまう。皆さんにお配りした資料のように教員数が増えます。それについては、「これは財政的にしっかりと配置していきます」ということは教育委員会では現段階では言えません。教育委員会としては財政権がありませんので、このようなソフト事業を手厚くした学校現場の整備を行っていきたいという考えで町長に強く要望をしていくという現段階での考えです。

《男性》

昨日、今日とやっているのですが、私は昨日日本小牛田しか行っていないのでほかはわかりませんが、中学校の1校に統合ということと、小学校よりも中学校を先にやるということをしちっと決めたのですか。どうもその辺が宣言されないままに、皆思い思いに言っているような感じなので、はっきりした方が良いのではないですか。

《教育次長（須田）》

皆さんにお配りした資料の2枚目ですが、その最後の方に書いてあります。今回こういった教育委員会の意見をお示ししながら、皆さんと意見交換をして、1回や2回ではなくて回数を重ねて最終決定をしていきたいという考えです。ですので、中学校を先にやる、3校を1校にするという現在の将来ビジョンを持っていますが、これは確定したものではありません。ビジョンとして教育委員会が描いた像ではありますが、さらにここから確定していくためには、先ほど以来お話ししておりますように、何回も皆さんと意見交換を重ねながら、確定していくと、そういう考えです。

《男性》

一応、ビジョンとして構想として出ているのですから、これについての議論をしなければなりませんね。これに絞らないでよそのことも含めての議論だと堂々巡りになってしまう。やはり絞って、議論をして、そして結論を出していくと、そういうふうにしたら良いと思います。

《委員長（後藤）》

最初の挨拶の時にも申し上げましたように、今回が皆さんとの話合いが最初でありますので、いろいろと意見を聞いたうえで、また皆さんと話合いを持って確定していきたいと、そういうような形で話合いを進めておりますので、今日はまだ二日目で、来週は南郷地区のお

話し合いもありますので、それを教育委員会としては総合的にまとめまして、それをまた皆さんにお話して意見を聴いていきます。今ここで確定した方が良いのではないかとこのことに関しましては未だ早いのではないかと考えています。

《女性》

教育委員会の方では、ここで、一回で決定するのではなく、何度もみんなで話し合っただけで進むのだということはわかります。では、しかしながら、第1回の話し合いの場で、こういったビジョンを持つのであれば説得力のあるもの、裏付けとしてもっと具体的に、今まで住民から質問があったのですが、そういった質問にすぐに答えられるような、もうちょっと見通しの持った資料を提示して欲しいなあと思います。教育委員会の方は教育について見識のある方々ですので、もう少し説得力を持って進めていただきたいなあと思います。それから、小学校の部に入らせていただきますが、最終的には小学校もビジョンとして3校を1校に再編するとありますが、これはいろいろな教育的な観点から不思議に思うのです。教育委員会として本当にこのような考えなのでしょうか。

《課長補佐（早坂）》

先ほどの件に関しましては、ご意見としては中学校を一つにするということは確定なのか、確定をして欲しい、確定したうえで説明をして欲しいということでの話しだと思いましたが、こちらの教育委員会としては皆さんのご意見を聴いたうえで確定をしていくということですので御理解をお願いします。

《男性》

ここで確定しなさいということではないですよ。ビジョンが、基本構想と同じものができているのだから説明を教育委員会としてやらなければならないです。教育委員会としてはこういう理由で3校を1校としたいのでこれで討議してください。決定はこの先にやりますということですよ。進め方を絞っていないのですよ。

《教育次長（須田）》

私をはじめに説明しましたように、現状のまま、何も手つかずではダメだというのは教育委員会として決まった事項です。それで小牛田中学校と不動堂中学校がすでにかかなり古くなっている状況です。毎年、毎年修繕を繰り返しながら生徒の完全を確保しています。それをいつまでも続けてはダメなので、大規模改修をするか建替えるのかという問題があります。建替えるのが一番手短です。しかし財政的な厳しい条件がありますので、2つの学校を両方建替えるということは難しい問題です。ですので、どうしたら良いのか、子供たちが減ってくると、であるならば2校を1校にするという方法もあります。南郷地域では、南郷中学校の校舎はまだ36年、30数年しか経過していません。しかし、1年生から3年生まで120人から130人です。来年は3年生の59人が卒業して39人が入ってくるのですが20人減ります。100人そこそこ、110人くらいです。近い将来は100人を切ってくる、一学年が100ではないですよ、1年生から3年生までの全校で100人です。箕岳中学校の70人に比べれば多いのですが、いずれそのように減っていきます。それも含め

て、小牛田中学校と不動堂中学校が古くなっているのと合わせて一緒に考えていこうというところで5年後には1つの中学校を作りたいというのが教育委員会の現在の考えです。

《男性》

今、教育の面と校舎の老朽化の面、これを一緒に話していますが、昨日も私話したのですが、老朽化はまだなっていません。新築した以外はみな老朽化になってくる、こんなこと言っていたら。まだ50年は持ちます。そのために長寿命化なんかを国で30年延ばしましょうとやっているのですから、建物ではないでしょ。後で言った南郷中学校の生徒数の問題、こういったことが統一するための理由が一番大きいと思います。建物だったら建替えればいいのですから、お金がかかっても。それから老朽化の問題で、給食センターの時も出ましたけれども、まだまだこれも持ちます。国土交通省の我々の会員が打設テストして老朽化しているかしていないか全部調べました。老朽化していません、していないのは手入れをしていない。ちゃんと帳簿をつくって手入れをすればまだまだ持ちますと、これ再編審議会の時にあがっているはずですよ。ですから建物ではなくて教育の面で南郷がこういう状態になっている、これが一番大切なことだと思います。

《課長補佐（早坂）》

老朽化の問題については冒頭に須田次長からもお話したように、建築を専門とする方にきちんと見ていただいて、そのうえで判断していくという旨をお話ししておりますのでそれで御理解をいただきたいと思います。時間も少なくなってきましたが、小学校の再編について御意見はありませんか。先ほど、小学校3校を最終的に1校にしてということの説明について教育長から説明します。

《教育長（佐々木）》

今日の住民説明会の内容を決定する基となったのは、昨年度に策定しました学校再編ビジョンというのがあります。その再編ビジョンについて基本構想ですね、どうですかということをお話して住民の方と6回ほど意見交換会を開催し、パブリックコメントを出したりして策定したものであります。そのビジョンの中に将来的に小学校を一つにしたいということをお話しておりますので、だから書いたということではありませんが、説明会の内容についてはそのビジョンとの関連性が強いものでないと不自然になりますので、再編ビジョンに基づいた内容でお示ししております。もちろん、こういった話合い、意見交換会を行って小学校を将来的に一つというのは無理であろうとなればこれは当然、皆さんのそういった意見を教育委員会として尊重していきたいと考えていますので、その部分について御理解をいただきたいと思います。

《教育次長（須田）》

中学校区あたりに1校ずつにという、一段階というか、その間に入れるということのメリットとしては、これまで小学校区を単位とした地域コミュニティが長い期間あったと思います。それが消えて美里町1つという形になるよりは、一旦、中学校区単位での学校コミュニティというものを経過して、その後、その3校体制でそのまま良いのか、またもう一度

検討したうえで、1校というものに進むべきだと思います。一期に一校ではなくて、又は現在の6校をそのまま存続するというのも一つの選択肢かもしれません。その中間をとって、中学校区単位で1つの小学校区コミュニティをつくるのが良いのではないかと、南郷は1校になっていますが、不動堂中学校区で小学校を一つにして、小牛田中学校区でも一つにして、そしてそれぞれ地域によって実情が違いますので、南郷はもうなっていますが、不動堂中学校区と小牛田中学校区を同じ時期に、同じ日に一つにするというのではなくて、地域によってその時期も違うと思います。児童の多い少ないもありますし、あるいはそれぞれ地域の皆さんの考えもありますし、それを大切にしながら、経過を一つ踏むべきではないかと考えています。そして、そのうえで3つの小学校を一つにするべきなのか、しない方が良いのか、再度また検討していくという考えでもっていったら良いのではないかと考えています。

《課長補佐（早坂）》

ただ今の御意見につきましては、中学校区に小学校1校ずつ、そのあと小学校を1校に、基本的にはこのような考えを持っていますよということです。ただし、皆様の御意見をお伺いしたいという部分が当然ありますので、この件に対しまして意見、質問等あればお出しください。

《男性》

どうして2段階かということは今説明を聴きましてけれども、これはその都度やるような形になるのですね。これから見て自然的に、青生と不動堂が一緒になると、これは不動堂に吸収するわけですね。どうなのですか。それから小牛田小学校、北浦、中塚、これは小牛田小学校に吸収するわけですね、その辺のところは私達にはぜんぜんわからない。また、地域の人もそこを知りたいと思いますよ。なぜ2回にするのか、1回でやった時に、2回でやった時に費用的にそんなに変わらないのか。今の分け方だと不動堂に青生を吸収して、小牛田小学校に北浦、中塚を一緒にするような形になるのですか、その辺のところをお聞かせください。住民の人は皆、この資料を見たらそう思いますよね、これを見たら。

《教育次長（須田）》

上下で学校名を書いていますのでそのような誤解を招くようになって大変申し訳ありませんが、これはどこがどこに吸収するとか、吸収されるとかのお話ではありません。もう一つ説明を忘れたのですが、今、こごた幼稚園とふどうどう幼稚園があります。そして小牛田中学校と不動堂中学校があります。中学校と幼稚園はだいたい同じエリアです。このエリアを基にして中学校区、また、幼稚園の園区を基にして小学校の再編エリアをつくった形です。それで大変に誤解を招く資料で申し訳ないのですが、これは上にある学校が下にある学校を吸収するものではないということだけは改めて説明をさせていただきます。

《男性》

吸収する、しないと言うと少し言葉が悪いのですが、そうじゃなくて、できるだけ学校を作らないで現在ある所と一緒にするというような方針でしょ、そうすると不動堂と青生はどの校舎を使うのですか、それから、小牛田、北浦、中塚はどこを使う予定ですか、というの

は皆知りたいところです。そういう意味で言っています。吸収うんぬんの話はちょっと言葉が過ぎた。

《教育次長（須田）》

最初にお話をしたように、今、それぞれの学校の状況が一緒ではなく、それぞれ建てた後の年数が違いますので、年数とそして今の状況、広さ等があります。まずは、今の学校を改修して長寿命化、もし大規模改修をするのであれば、国の長寿命化は30年間延ばすのですが、30年延ばすことができる校舎であるかどうか、それを調べなくてはなりません。たとえ30年延ばすことができても、そのための費用がどれくらいかかるのか、それも調べた上でどの校舎を使うのか、あるいは、新しく建てるのかというのは、その後の検討にしていきたいと思っています。

《課長補佐（早坂）》

せっかくの機会ですので、多くの皆さんの御意見を頂戴したいと思います。また、ご発言されていない方で何か聴いてみたい、話してみたいという方はいらっしゃいませんか。

《男性》

駅東で8カ月の男の子を抱えている父親です。これを考える基となった全国の成功例を次回の住民説明会で提示していただき、こういう小学校、中学校を理想にしているのだよという具体的なものを資料としてお示ししていただきたいという要望が私の意見であります。

《課長補佐（早坂）》

ありがとうございます。ただいまの意見は、良い物をつくるために具体例を次回の説明会では提示して欲しいというご要望と承ってまいりたいと思います。そのほか、ございませんか。

《女性》

小学校と中学校と、今9つの小中学校があるわけで、それが1つに統廃合された後の話として、残ってしまった5校の小学校と2校の中学校のその後の利用の仕方をどうするのか、というのがちょっと気になる点であります。と言いますのは、先日、練牛小学校の前を通った時に、校庭中に草がぼうぼう生えていて何も手つかず状態でした。南郷小学校と統合した後にどのような使い方をしてきたのか、ちょっと気になりました。指定避難場所にはなっていたのですが、いざ使うとなった時にあれだけ草がぼうぼうと生えていたら近寄れないと思います。それから、そうそうないとは思いますが廃校になった後の治安の問題、学校に人が勝手に入ったりとかしないかとか、そういうことを考えるとその後の小中学校の利用の仕方というのも文科省の方からも出していたと思うので、そういった今後の活用方法も今後の資料として出していただきたら良いのではないかと思います。

《教育次長（須田）》

はい、了解しました。

《男性》

最後に私、言うおうかと思っていたのですが、今、学校の跡地の問題が出たので、ついでな

ので言わせてもらいますけれども、今、この町で問題になっている道の駅、全部そろえると30億かかりますと、それに対して町民に対して、我々で7月7日の日にいろいろ町長、副町長と話をしたのですが、これをよく話を聴いてみると、道の駅だけじゃなくて産業活性化拠点というものを整備するのだということ、それに道の駅をとというふうに2つをやるのですね。ところが、道の駅にすると、国土交通省でやる分と町でやる分といろいろと備えなければならない。産業活性化拠点というのは何も道の駅やらなくてもできます。これは例えば農業体験とか、研究室とか。そのために道の駅と産業活性化拠点は切り離すべきだと、それで切り離して、産業活性化拠点の方は今の学校のいらなくなった施設を使えば十分にやっていける。そういうことで逆に教育次長、町長と副町長に提言して欲しいこと。教育委員会としてこういう計画なのでこれだけ余ってくる、今の活性化拠点に使えますよというようなそういう提言を是非して欲しいです。そう思って今発言をさせていただきました。

《課長補佐（早坂）》

ただいまのは、ご要望ということで、お受けしたいと思います。そのほかございませんでしょうか。全体を通してということでかまいませんので何か御意見、御質問等あればお伺いしたいと思います。

《男性》

今説明を聴いて、だいたい頭の整理がややできつつあると、こう感じました。私は3点ほどお尋ねをしたいのですが、この再編の問題は百年の大計にたって解決しなければならない、土台をつくらなければならないという大きな課題のものだと思います。従って、教育委員会として、この統廃合、再編という言葉になっていますが、統廃合の問題をどのように検討をされたか、それをお聴ききたいと思います。先ほどのお話しで教育長は6回ほど、なんとか会議から教育委員会へ答申をいただいたと、初めて聴いて、そういうふうに努力されているのかなと認識をしました。しかし、最終的な決定は教育委員会で議論をして方針を出すというのが原則だと思います。ですから、私たちは教育委員会を信じておりますし、多くの労をとっていることに感謝をしますが、今回までに、このビジョンを提出するまでに、どれほど教育委員会が協議されたか。そこを一番、私は知りたいところであります。2点目、協議の内容について知りたいです。各委員が重要なテーマを設定してそれで協議してきたのか、それとも多角的にいろいろな立場からいろいろな視点で自由な討論をして今日を迎えているのか。その中身をもう少し申し上げると、学習環境の整備ということで謳われています。これはたぶん、より良い環境の下で児童生徒に学習をさせるという教育委員会の方針が大事、中身を具体的に言えばバリアフリーなどはどうなのか、さらに建築するに当たって素材はどういうものを利用しようとしているのか、そういうことが教育委員会としてのきめの細かい児童生徒を中心とした大事にする教育現場、そのようなものをどのように議論したのか。3つ目、協議をする中で最も重要で時間をかけたテーマは何だったか。4点目、合併して10年になります。合併協定書は平成17年3月19日に調印をしています。この合併協定書との整合性をどう教育委員会で協議されたのか。そして、今日のこの資料のどの辺に網

羅されているのか。そこを私は知りたいと思います。大きな質問の2点目になりますが、ここに来て初めて教育委員会の姿勢がわかりました。配布された資料を見るだけでは、皆さんから意見を聴きますよということだけの資料だったのですよね。どれだけ教育委員会として私達町民の声を、再編に向けた町民の意見をどれだけ入れていただけるのかなというのがこの現場に来るまでわかりませんでした。基本設計の段階からなのか、実施設計の段階からなのか、それから場所の選定、これも皆さんの意見を聴いて選定するのか。それから付帯施設の問題、校庭は、テニスコートは、体育館は、そういうのも町民の意見をすべて網羅して、すべてとは言いませんが大方の希望を入れてこれから諸準備に取りかかるのか。まだ、皆さんから意見を聴いて返答しますという答弁ですよ。それはわかるのですが、その辺を含めて意見をどのように吸い上げて具現化していただくか、ということがまず2点目としてお聴きをしたいと思います。それから、3点目になりますが、既存の校舎を利用する方法と新しく新たな土地に建設をするという2つの考えを提示されています。私が知りたいのは小学校、中学校それぞれ新しいところに新築をした場合、付帯設備も含めて1校当たりどれくらいかかるのか、費用の試算を行っていると思います。そういうある程度明らかにして、よってこのような金額がかかるので、町の財政を見ればだいぶ窮屈です、いくら節約しても窮屈です、文科省の補助金、合併特例事業債が使えるのであれば財源はこういうふうになります、財政計画はこのようになります、30年の年賦払いにします、こういうふうなシミュレーションを教育委員会として素案を持っていると私は思います。特に、教育総務課長は昨日まで財政課長をしていたわけですから、私たち以上に町の財政について詳しいし、長期展望に立った財政計画も何年もやってこられた方ですから、腹案を持っていると思います。ここで出していただいた方が理解をいただけるのではないかなと、そうすれば新しく建てることによって町の財政に圧迫をかけてしまう、よって、当面、10年間、20年間、あるいは30年間はこの校舎で大改築をしてやらざるをえないという説得力も出てくるのではないかと思います。その辺、もう少し腹を割って話していただいた方が町民の皆さんの理解をいただける理由の一つになるのではないかと思います。最後になりますが、学校給食について、どういうふうを考えているのか。これはセットで考えなければならない問題だと思います。話があちらこちらへ行ってしまったようですが、今答えられる範囲で結構ですからお答えいただければと思います。

《課長補佐（早坂）》

大きく4つほどですか、あげていただきました。再編に関しての検討の方法の部分、それから再編をするに当たっての住民の意見の集約と言いますか施設の設備も含めてそういった住民の意見を取り入れてもらえるか、それから校舎利用ではなくて新たに新築する場合の試算はどれくらいなのか、それから学校給食との関連性との御質問、御意見をいただきました。まずは、再編をどのように検討してきたかにつきましては教育長から回答します。

《教育長（佐々木）》

本日に至るまでの概略等をお知らせします。最初は、平成24年の4月に学校教育環境審議

会というものを設立しまして教育委員会では学校の適正規模、適正配置に関する基本的な考え方等々について4点か5点くらい諮問をしまして審議をしていただきました。それがスタートであります。そしてそれを受けてですね、平成26年の3月に答申をいただいて、もちろんその間、教育委員会の定例会で毎回、継続協議ということでやっております。その後、審議会からの答申を受けて教育委員会では再編ビジョン、美里町の学校についてどうあるべきか、これもいろいろと御意見を聴きながら検討してまいりました。教育委員会では毎回継続協議ということで、この学校教育環境について継続協議ということでやってきました。もちろん、内容、テーマを言いますと、子どもたちの立場に立って、どう学校があるべきなのか、ソフト面ですね、それを中心に議論をし、そしてそれに伴いハード面がどうなっているのか、そういったことなど、生徒、子ども主体の考え方で協議をしてきました。もちろん、再編するに当たっては地域住民皆様方の御理解、そのための御意見を沢山いただいて保護者を含めてですね、それが2点目であります。3点目としましては、当然これはお金が関係してきますので財政についてです。しかし、教育委員会としては財政について協議することはできませんでしたが、ソフト面、ハード面について再編ビジョンを策定するまでに協議をしてまいりました。再編ビジョンを策定したのが27年の12月だったでしょうか、その前に先ほど申し上げましたようにビジョンを決める前に皆様方の御意見、あるいはパブリックコメント等で策定してきております。それが1点目、2点目でしょうか、の御質問の回答とさせていただきます。それから建設に当たってのいろいろな経費とか、あるいは合併協定書等々の係わりについては教育次長の方からお話いたしますのでよろしくお願ひします。

《教育次長（須田）》

大きな2点目のこれから進める上で意見をどこまで取り入れていただくのかということですが、お聴きした意見はそれぞれ多様でさまざまです。皆さんの意見をすべて取り入れることは不可能です。まずは、進める上では公開の原則と、皆さんに知っていただくということです。当然公開できない部分もありますのでそれは公開しませんが、それ以外については常にお伝えをしていくということを行っていきます。皆さんに知っていただくということです。知っていただいた上で皆さんの意見を聴いていく、そして、このような形でなにかビジョンが変わったとか、内容が具体的になったとか、あるいは手法の面で建てることになったとか、改築することになったとかという大きな問題については、このように決めていきたいのだが、というように決める前の段階で皆さんにお知らせをして、御意見を聴くような場面をこまめにつくっていきたいと思います。これは場所の選定から、手法のことから含めて行っていきたくと思っています。ので、よろしくお願ひします。3点目の一校当たりの試算、それは当然こちらの方で行っています。業者に頼んで設計すると費用がかかるので、今まで建てた、参考にしたのが隣の古川東中学校、金成小中一貫校、富谷町の明石台小学校、それぞれを調べました。それから一昨日ですかね、鶴岡第3中学校ですが、東北ワイド版に載っていたのですがそちらは30億という事業費でした。これら、資料を提供していただい

て調べたところ、教室の数にもよるのですが校舎はおおむね20億、そのほか体育館、武道場、プールその他の付帯施設、外構等を含めて10億、現在のある敷地を利用した場合は約30億円くらいです。新たに土地を求めた場合には、その広さにもよりますが、4ヘクタールくらいの広さから積算するとプラス5億です。概ね35億円の事業費で、いま8月を目途に企画財政課の方で今後5年間の財政推計を行っています。10年間で推計するのですが、今後5年間の事業費についてある程度の見通しを立てています。企画財政課の財政推計の方にはこの35億円で予算をお願いしているところです。それから、これに対する財源ですが、国からの補助金はおおむね事業費の2割とさせていただいた方がいいです。あとの残り28億円ですが、これを皆さんの税金で負担していただくということは町にはそれほどの余力はありませんので、一般的に言われる借金です、地方債と呼んでいるのですが、起債を起こします。その起債ですね、残った事業費の90パーセントから95パーセントくらいの割合で借り入れることができます。借り入れてお返しをするのですが、そこには当然金利が入って利子が付きますので、借りた金額よりも利子の分、余計に支払います。ただ、国の方でもかなり財政がひっ迫していますが、それぞれの市町村が20年とか、30年とかの期間で返していくわけですが、返す時にですね、地方交付税というところに上乗せをするという制度があります。例えば、今年、美里町が1億円返す場合、その50パーセントの5千万は地方交付税に上乗せをしてやりますよという制度があります。前に三位一体改革と言って補助事業を減らしましょうということで、その代わりに市町村に借金をさせて返す時に後から財源を補てんするという制度です。それで、借りた金額に対してですね、事業によって、借りるものによって、3割が後から補てんされたり、5割補てんされたり、7割補てんされたりといろいろあります。先ほどの御質問の中にありました合併特例事業債は7割が後から返ってくる有利な制度です。そうした有利な制度の借金といえますか、地方債を借り入れて、後年度の負担をなるべく小さくしながら、この35億をねん出していくということです。これが今、企画財政課で行っている財政推計です。ですので、その時にはそれほど皆さんの税金から直接お支払いする金額が少なくても、借り入れた金額を後々まで返していくという、一般的には借金といえますか、支払いが後年度まで残ります。ですので、一つの学校を新しく建てた場合には、今のような35億が必要です。土地がもし（購入する必要が）ない場合には30億くらいで済むのかなと思います。校舎が古くなっている場合には、体育館、プールなども古くなっていますので、校舎とその他の施設で、小牛田中学校と不動堂中学校の両方を新築するのであれば60億です。今の場所に建てるとしても、35億のお話を先ほどしましたが、この35億でも実際、町としては大変です。国の方にお金があれば今後見通しの良い財政計画も立てられるのですが、国の方はこのとおり、国と地方合わせて1千兆円の借金を抱えていますので、必ずこれから良くなるはずはありません。市町村の財政は、国に依存している部分が大きいですから、国が良くなれば市町村もかなり良くなるのですが、国が良くなることは見通せませんので、これから苦しくなっていく時代ですので、その時にできるだけ後年度への負担を減らすことは当然に町として必要です。ですので、2つ、

3つの学校をつくるということは現実的に不可能です。学校をつくって町がバンザイしてしまう状況になりますので、できれば少ない学校建設、学校に対する費用の投資で良い学校の教育環境をつくっていききたいという考えです。現在のところはそのような財政運営を考えています。4点目の給食がどのようになるかということですが、これについてはまだ検討は行っていません。当然、学校ができれば学校の近くに、あるいは学校に付設して給食施設ができるのでしようけれども、これについては現在のところ考えておりません。今後、どのような学校再編の姿になるかによって、そちらの方も考えていききたいと思います。合併協定書の中身については大変申し訳ありませんが確認をしておりませんので、後ほど御回答をさせていただきます。

《課長補佐（早坂）》

ということで多方面にわたってお答えをさせていただきました。その他、ございますでしょうか。なければ、非常に長い時間となりましたが、これで学校再編についての説明会となっていますが、意見交換会を閉じたいと思います。閉会に当たりまして佐々木教育長から閉会の挨拶を申し上げます。

《教育長（佐々木）》

貴重な日曜日の午前、皆様方にはたくさん協議をしていただきました。8会場を予定しておりまして、ちょうど半分終わりました。残り4会場でいろいろと御意見をお聴きしながら、教育委員会としてまとめてお知らせをしながら、また相談をする機会を設けながら、子どもたちにとってどうあるべきなのか、どれが良いのかを見失わずにやっていきたいと思えます。今日はありがとうございました。